

**研究事業 衛星観測に関する研究事業(衛星観測センター)**

**委員会の主要意見**

現状についての評価・質問等

- 人工衛星利用の研究は膨大な資金が必要となるが、継続して予算を獲得し、モニタリング活動が行われており、それによって貴重なデータが集積されていることを高く評価する。
- 海外との連携も着実に進め、フィンランド環境研究所との植物光合成速度測定や太陽光励起蛍光研究は良い取り組みと評価する。

今後への期待など

- GOSAT 及び GOSAT-2の同時運用期間をできるだけ長く取り、得られるデータの継続性を担保するとともに、GOSAT データを利用した研究が増えることを期待する。
- 同様の規模や予算で衛星を利用した活動を行っている海外機関等との対比も示されたい。

**主要意見に対する国環研の考え方**

- ①本事業に投入された資金に見合う成果の創出／社会貢献が今後も継続できるよう努力致します。
- ②海外との連携については温室効果ガス観測衛星を保有する国々だけでなく、(衛星は保有しないものの)衛星を必要とする国々、我が国と相補的な役割を期待できる国々についても、積極的に考えて行きたいと思えます。
- ③GOSAT の稼働率が徐々に低下してきていますが、GOSAT と GOSAT-2 の同時運用期間を可能な限り長く取り、データの継続性を担保していきたいと思えます。また GOSAT シリーズならではの特性(長期観測、CO<sub>2</sub>とCH<sub>4</sub>の同時観測、等々)を生かした研究を今後進めていきたいと考えています。
- ④「同様の規模や予算で衛星を利用した活動を行っている海外機関」については今後調査を進め、次期中長期計画や GOSAT-3 プロジェクトの実施体制に反映できるようにしたいと思えます。